

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

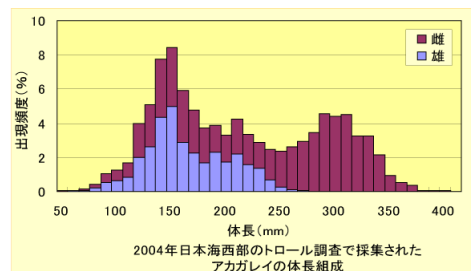
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 詳細は不明であるが、50%成熟体長は雌27cm、雄17cm
産卵期・産卵場: 2～4月に水深180～200mで産卵、主な産卵場は佐渡島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150～700m)で索餌
食性: クモヒドデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
捕食者: 不明

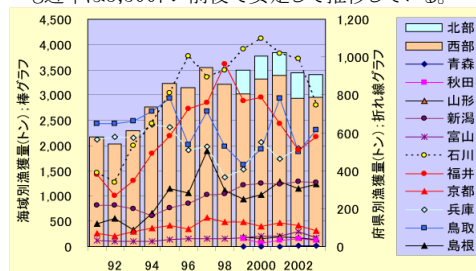


漁業の特徴

アカガレイは日本海および東北地方太平洋沿岸～北海道に生息し、底びき網漁業や刺し網漁業などの漁獲対象となっている。日本海においては水深150～700mに分布し、沖合底びき網漁業および小型底びき網漁業の主対象種となっている。

漁獲の動向

1991年以降の日本海西部(石川県～島根県)の漁獲量を見ると、1990年代前半は2,000トン程度であったが、1995年頃に3,000トンを超え、その後は3,000～3,500トンで安定して推移している。日本海北部(青森県～富山県)では、漁獲量の多い新潟県が増加傾向を示しており、北部全体では近年は400～500トン台で安定している。日本海全体でも近年は3,500トン前後で安定して推移している。

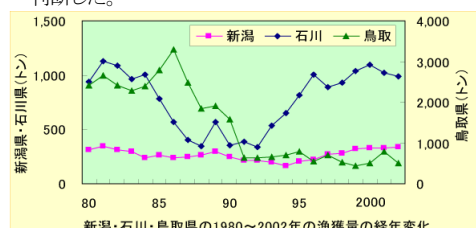
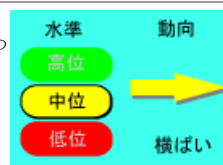


資源評価法

各海域(県)の漁獲動向と沖合底びき網の漁獲統計を参照して、資源水準・動向を判断した。また、これにトロール調査の結果を加味し、資源管理方策を立て、ABCを算定した。

資源状態

日本海西部の漁獲量を見ると、1990年代前半の極めて低い水準から脱して、近年は安定して推移している。沖合底びき網の努力量の変化を見ても、近年の漁獲圧は低い状態にある。1980年から情報の得られる、新潟、石川、鳥取県の漁獲量の推移を見ると、成育場がある新潟と石川の近年の漁獲量は1980年代の水準まで回復したが、鳥取県では1990年代以降漁獲量の増加は見られない。これらのことから、日本海の資源は1990年代前半の極めて悪い状態からは脱したが、1980年代のレベルには達していないと判断し、資源水準は中位とした。また、近年の漁獲量は安定して推移しているため、動向は横ばい傾向と判断した。



管理方策

資源水準は中位であるが、近年の漁獲圧は低い状態にあり、漁獲量の推移も安定している。2004年の着底トロール調査の結果、日本海西部海域に卓越年級群の発生が確認された。この年級群は2004年9月開始の漁期から漁獲され始められると思われるが、雌は漁獲開始～成熟に数年を要することから、漁獲圧を現状以上に上げず、特に雌小型魚を保護することが、資源を増やすうえで重要である。そこで、最近3年間の平均漁獲量(確定値である2000～2002年の平均値)をABClimitとし、さらにその8割をABCtargetとした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,700トン	Cave3-yr	-	-
ABCtarget	3,000トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 最近年の資源状態は、日本海西部海域では中位、日本海北部海域では高位にあり、日本海全体では中位で安定している
- 卓越年級群が加入するが、雌小型魚を保護することが重要
- 漁獲圧を現状に留めることが重要

管理方策のまとめ

- 管理目標は漁獲圧を現状に留める
- 加賀・若狭海域の禁漁区が成果をあげていると考えられることから、本種の生物特性にあった資源管理・保護を行うことは重要
- 卓越年級群が加入したが、漁獲開始～成熟に雌は数年を要することから、雌小型魚を保護することが資源を増やすうえで重要

資源評価は毎年更新されます。